

2022年度

教職課程

自己点検評価報告書

新潟青陵大学短期大学部

2023年3月

目次

I 教職課程の現況及び特色	3
II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価	4
基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	4
基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	9
III 総合評価	12
IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	13
V 現況基礎データ一覧	14

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

大学名：新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科
 所在地：新潟県新潟市中央区水道町1丁目5939番地
 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数：教職課程履修259名／短期大学部全体667名
 教員数：教職課程科目担当（教職・教科とも）11名／短期大学部全体35名

2 特色

新潟青陵大学短期大学部は、女子のための「実学教育」と女性の地位向上の啓発活動をしていた帝国婦人協会創設者・下田歌子女史の教育思想をもとに、地域のニーズに応えるべく、「日進の学理を応用し、努めて現今の社会に適応すべき実学を教授する」を建学の精神としている。幼児教育学科は、昭和43年の開学以来、多くの卒業生が幼稚園2種免許状、保育士資格を取得して、「幼稚園」や「認定こども園」保育所などの児童福祉施設」及び「社会福祉施設」等で活躍し、地域からの厚い信頼を得ている。

また、学則第3条3項において、「幼児教育分野における実践的教育を通して、万物に対する深い愛と広い視野、豊かな感性をもって保育を創造することができる専門家を養成することにある」と教育目的を定めている。さらに、学科の教育目標として、「子どもの気持ちに寄り添いながら、その健やかな成長と発達を支援し、子どもの最善の利益を尊重する保育者として、地域の人々や関連する機関と連携して様々な問題を解決することができる専門的職業人を育成することを目標とすること」を学生便覧に掲載している。

この目的・目標を達成するために、卒業認定・学位授与の方針「ディプロマ・ポリシー」、教育課程の編成・実施の方針「カリキュラム・ポリシー」、及び、望まれる学生像を示す入学者受け入れ方針「アドミッション・ポリシー」を次のように定める。

◆ディプロマ・ポリシー

- ①広い視野をもち保育者としての専門的知識と技能、問題解決能力を有している。
- ②社会の要求をとらえた創造性豊かな保育を構想し、主体的に実践できる。
- ③人権尊重の精神と万物を慈しむ心をもち、他者と協働して保育を行うことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

- ①初年次教育において、基礎的な学習方法を身につけ、各専門分野においてより専門的な科目、実践的な科目へと展開するとともに、能動的学修の充実を図る。
- ②豊かな感性と創造性を育み、共感する心とそれを表現する力を養うことにより、保育者としての実践力が発揮できるようにする。
- ③様々な保育の現場に対応するために、人権尊重の保育と基本的な礼節を重視し、演習や実習指導に取り組む。

◆アドミッション・ポリシー

- ①保育をみざす高い志と、本学での就学に必要な基礎学力および基礎技能をもつ人
- ②積極的に学ぶ意欲と臨機応変に課題にとり組める人
- ③明朗で協調性があり、対人関係を円滑に築くことができる人

<根拠となる資料、データ等>

資料1-1-1 学生便覧 建学の精神 (P.5) 学則 (P.82)

資料1-1-2 学生便覧 幼児教育学科 教育方針・教育目標 (P.10)

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科の教職課程教育の目的は、「幼児教育分野における実践的教育を通して、万物に対する深い愛と広い視野、豊かな感性をもって保育を創造することができる専門家を養成することにある」というものである（学則第3条3項）。本学科ではこの目的に基づいて学科の教育目標ならびに3つのポリシー（学科がめざす人物像・学びの基本方針・学科が求める人物像）を定めており、これらは本学の学生便覧、HP等に掲載され、学内外に公開されている。本学科の学生に対しては、入学時のオリエンテーションの際に、学科の教育目標ならびに3つのポリシーを周知する機会を設けている。また本学科では、次に記す本学科の「長所・特色」となる取り組みを通じて、教職課程教育の目的・目標の共有を図っている。

〔長所・特色〕

幼児教育学科では、毎年実施される外部有識者による第三者評価を踏まえて、本学科の教育目標ならびに3つのポリシーに沿った教育が実現されているか検討する機会を年1回、学科会議の場で設けている。また学科教員の担当教科が、幼稚園教育要領等の規定に基づいて正しく実践されているかを検討する機会（シラバス検討会）も、毎月実施を目標に学科会議の場で設けている。さらに教育実習の受け入れ園の代表者を本学に招き、本学科の教育目標の周知を図るとともに、教育内容の充実に向けた協議を行う「実習連絡会」を年1回開催している。本学科の学生に対しては「学習成果の達成度自己評価」調査および「保育者効力感調査」（ともに本学策定）をそれぞれ年1回実施し、教職課程教育の達成度を客観的に評価する機会を設けている。これらの調査結果は学科の各教員が担当する「アドバイザー・グループ」の個別指導に活かされており、教職課程教育の目的・目標の周知を促すと考えられる。

〔取り組み上の課題〕

2年間の教育課程で幼稚園教諭2種免許および保育士資格の取得を目指す本学科では、科目数と授業時間の増大により、学生に対するきめ細やかな指導が年々困難になる状況が生じている。合わせて3年間におよぶコロナ禍により学生に対面的な指導を行う機会が減少しており、教職課程教育の目的・目標の共有が形式的なレベルに留まってしまうことが懸念されている。今後、限られた機会と時間の中で、学生への教職課程教育の目的・目標の周知をどれだけ実のあるものにできるかが本学科の課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1－1－1：新潟青陵大学短期大学部 学則
- ・資料1－1－2：新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科3つのポリシー
https://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/child_ed/policy/

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学では、文部科学省が示す教職課程認定基準を踏まえ、教職課程を担当するにあたり十分な研究・教育業績ならびに学校や幼児教育の現場における教育経験を有する教員を配置している。そのうえで、幼児教育学科では、学科教員全員が配置された養成委員会を設置しており、事前・事後を含めた教育実習に関する情報共有が行われている。さらに、事務局に実習支援室を配置し、学科の実習指導担当教員と役割を分担しながら、連携し教育実習の支援体制を整えている。

また、事務局学務課は、学習成果の獲得を向上させるため、学内の教務委員会に学務課職員が委員等として参画し、学習成果の獲得に資する教育活動に職員の立場から意見を述べるができる組織体制を構築している。その他にも、学生支援に必要な情報を共有できるN-COMPASSを運用することで、教職員は学生カルテや学生の出欠状況・成績を随時確認しながら、科目担当教員、アドバイザー教員、事務職員と連携しながら指導にあたっている。さらに、教職課程等は、定期的に学科会議で現状と課題を整理したうえで見直しを検討し、変更が必要な場合には、教務委員会での確認を経て最終的に教授会で了承を得るようになってきている。そのため、変更内容等については、教職員と事務職員の双方の視点から検討と確認が行われている。

教職課程教育を行う上での施設・設備としては、入学と同時に全学生にノートパソコンを貸与している。そのため、講義室はもちろん、校舎内で無線LANによりネットワーク接続ができるほか、教育課程に基づいて授業を行うためのAV機器、備品等を設置している。その他の設備、環境としては、音楽を学ぶための音楽室やレッスン室、図画工作を学ぶための多目的実習室、体育を学ぶための体育実技室、幼児教育の実践方法を学ぶための教職実践演習室を配置している。

〔長所・特色〕

教職課程のなかで幼稚園教育実習は大きな位置づけとなっている。学生の期待や不安を支えながら事前・事後も含めた実習指導体制を強化する必要があると考えている。そのため、幼児教育学科では、実習担当の専任教員1名、特任助教2名、実習助手1名を配置し、幼稚園教育実習に関するアドバイスや指導、相談に集中して対応できる体制を整えている。

学生は、情報処理を習う科目だけではなく様々な授業科目でノートパソコンを活用し、ICTスキルの向上が図られておりICT教育や教育DX化に対応する力を高めている。

〔取り組み上の課題〕

本学で実施されるFDやSDの研修会では、様々な内容の研修が行われているものの、教職課程の質的向上に資する研修会については実施されていないため、今後の充実が必要である。また、本学科では、「実習連絡会議」を実施し稚園等に対し、本学科の教育内容の理解の促進を図っているが、具体的な指導に対する戸惑いが見られていた。そのため、今後は幼児教育学科の教育目的や目標に基づく人材育成を実習園がどのように進めるのかといった、実習園との協働性を組織的に高めていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1－2－1：新潟青陵大学短期大学部教員選考に関する規程
- ・資料 1－2－2：新潟青陵大学短期大学部組織規程
- ・資料 1－2－3：学校法人新潟青陵学園組織規程
- ・資料 1－2－4：学生便覧

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

幼児教育学科では、例年入学者の全員が幼稚園教員の免許状取得を希望している。長年の実績から地域からの要請も高いため、学生の多くは入学前から本学を卒業して地元地域の保育者（保育教諭等）として就職したいという目標をもって入学する学生が圧倒的に多い。したがって「大学案内」「オープンキャンパス」「高校への説明会」「模擬授業」などの学生募集では、そういった本学科の特性を伝えるべく、保育者（保育教諭等）になることを意識したアドミッション・ポリシーをかかげ、本学の入学と学修について説明を行っている。そのように、現状では教員養成課程と同じようなニーズをもった学科であるため、アドミッション・ポリシーの段階において教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始し、継続していくための基準を包含している。また、入学試験においては面接を重視し（総合型入試、推薦入試）、教員となる資質についてのアセスメントを行っている。

カリキュラム・ポリシーにおいては、建学の精神「日進の学理を応用し、勉めて現今の社会に適応すべき実学を教授する」に則し、保育者（教育者）になるための「知識」「技能」「実習」の3本柱を中心に組み立てられ、それぞれの科目が有機的に絡み合って1つの「保育」という学問体系を修得できるようになっている。また教員として欠かせない人権の尊重や礼節を常に重んじて教育にあたっている。

また定員超過に配慮し、学科全体の収容定員（260名）の維持に努め、無理のない教員の対応や行き渡った学生支援が行える適正な規模での受け入れとなっている。

〔長所・特色〕

- ①オープンキャンパスでは、併設の新潟青陵幼稚園の見学をおこなっており、入学前の早い段階から、教職について身近に感じ、教職に対する興味と理解を深め、教職につくことの適性について考えられる機会を設けている。特に技能修得に時間を要するピアノについては、入学前教育において個別にアドバイスして準備に取り組みせ、必要だと判断される高校生には個人レッスンも行っている。入学後も個人レッスンの形態をとり、専任教員による放課後レッスンもおこなっている。
- ②入学後は、学生一人ひとりに「アドバイザー教員」が配置され、学修上の質問から、保育者としての適正についての助言まで、「個別で先生に相談できる体制」をとっている。
- ③教育実習の事前事後の指導を専門とする専任教員を4名（学生総数は2学年260人）配置しており、学内には実習支援室が設置されている。教員が学生の個々の状況を把握し、実習受け入れ先との連携を図りながら、学生の個別フォローアップをきめ細やかに行っている。
- ④最初の教育実習は、全員が学内に併設の青陵幼稚園で行い、学生は安心してはじめての実習に取り組める。また、大学側も幼稚園の特性をよく理解した上で学生を送り出し、種々の問題に対して教員と連携を図って解決していくことができる。
- ⑤現職の園長や、保育教諭として働く卒業生の講話を聴く機会を複数回にわたって設け、教職の魅力、やりがい、求められる力、現状の課題など、教育に対する更なる興味と関心を高め、各個人がどのような保育者（教員）になりたいかのビジョンを持てるようにしている。
- ⑥表現実技系の科目を細分化して設置し、専門的かつきめ細かい指導をおこなっている。また科目数も多めに開設し、選択科目を充実させている。

〔取り組み上の課題〕

昨今の入試の状況から、保育者（保育教諭等）を志す高校生が全体的に減ってきており、入学生を選抜することが難しくなっている。それでも入学時に教員免許状（と保育士資格）の取得を希望する学生がほぼ100%であることは従来と変わらない。しかし以前は教職課程の履修を途中でやめる学生が1学年で数名であったのに対し、近年は途中であきらめる学生が増えている。これまで事実上の教員養成課程であった状況が変化しつつある。

今後は、授業内容の質の維持と更なる充実はもとより、教職以外の道を志す学生にも門戸を広

げ、教職以外を目指す学生と教職を目指す学生が共存するなかで、お互いの意見を交換したり、新たな視点で「教育」「指導者」をとらえる変革の意識を持たねばならないと思われる。そして、それがかえって現代の幅広いニーズや「多様性」を理解する柔軟性のある教員の育成に資することを考え、教育課程を見直していく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部CampusGuide
- ・資料2-1-2：新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科3つのポリシー
https://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/child_ed/policy/
- ・資料2-1-3：新潟青陵学園建学の精神
https://www.n-seiryu.ac.jp/about/school_motto/
- ・資料2-1-4：新潟青陵大学短期大学部中期計画（2018年度～2022年度）（P.3-8, P.7-19）
https://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/about/open/_info/plan/H30_34plan.pdf

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

大学・短大共通とする「キャリアセンター」所管の「キャリア委員会」を設置し、一定数の当該委員会構成委員を学内で委嘱し、月1回を基本として定期的に就職・進路についての情報共有並びに意見交換を行っている。就職支援のための施設としてキャリアサポートステーション（就職支援室）をキャリア支援課内に設置し、常勤のキャリアカウンセラーを複数人配置し、学生との相談窓口としての機能を果たしている。

キャリアセンター主導の下、学生との個人面談によって、学生の教職、保育職への意欲や適性、課題について把握し、面談記録等も活用しつつ教職員間での情報共有も図っている。公務員試験情報や求人情報については、掲示板や学内サーバNコンパスにて随時掲示、更新し、学生が求人情報、求人票を常に確認できるようにしている。

また、就職活動や実習時期に合わせて「キャリアガイダンス」を行い、就職への意欲と、実習関連科目への意欲を相乗的に高め、確実な幼稚園免許取得も促している。また、保育現場との交流の機会も、積極的に設けている。1年生を対象として、実際に幼稚園教諭、保育教諭、保育士として勤務する卒業生から体験談を聞く「就職支援説明会」も年1回を基本に定期的実施している。

〔長所・特色〕

学生数が多いながら就職活動の意欲を全体として高めるために、「キャリアガイダンス（全体）」と「面談・サポート（個別）」を、効果的な時期を吟味し、実施している。

全体の「キャリアガイダンス」は全員参加とし、大半の学生がその時に直面する課題を中心に工夫をしている。自己分析、園研究、自主実習・ボランティア、公務員試験対策、履歴書準備、就職試験、のそれぞれに着手する時期にその内容に特化して行っている。

同時に、学生一人一人との面談と、それを踏まえた個別対応にも力を入れている。学生個人の意欲や適性把握のために行っている面談は、実習や就職活動に合わせて、キャリア支援課職員や、教員アドバイザーが行い、それらの内容は面談記録として共有し、学生の不安や課題の内容に応じて教職員が連携しサポートしている。また、実際の採用試験に向けては、公務員試験対策のために指導スタッフを置き、試験の傾向と対策に特化した講座を開設し、成果をあげている。その他の就職試験全般に置いて、面接、小論文、ピアノ等、についても、キャリア支援課職員や教員が、個別に指導や助言を行っている。これらの支援・指導により、2021年度の実就職率も98%を超え、名目就職率は100%を維持している。

〔取り組み上の課題〕

2020年度の新型コロナ感染症拡大も一因し、学生の就職活動が困難になっている。主に、「実習の中止や延期により、園研究が十分進められないこと」、「学生間の交流の減少により、意欲の差が生まれていること」の2点である。

2020年以降は、園研究（見学やボランティア、自主実習など）が感染症状況によって不可になることも多く、就職活動に必要な情報を学生が十分得られない状況が続いている。保育施設や関連協会によるオンライン説明会や情報を積極的に学生に周知することで対応している。

また、2020年度以降、進路決定から採用試験応募、内定までの活動に、時間を要する学生が増加傾向にある。コロナ禍以前では、学生間での励ましあいや互いの報告によって、多くの学生が刺激しあい就職活動の雰囲気醸成されていた。しかし、対面での学生間交流やアドバイザーとの関わりも減少したこと、面談等のzoom多用により、意欲や希望を保つのが難しい学生も増えつつあると考えられる。対面での企画にて、より有効的なワークショップを取り入れるなど工夫を試みているが、今後の学生の状況と、就職活動環境に応じて、さらに対策を講じていく必要がある。そして、現状の学生の直面する多様な課題を見極め、効果的な方法を改善しながら、学生一人一人の人生に寄り添った就職支援を継続することが望まれる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：短大・就職実績（幼児教育学科）
https://bluebirds.n-seiryu.ac.jp/career/rec_nsujc/?_ga=2.51574121.1939747953.1677663954-388458349.1549123574
- ・資料2-2-2：キャリアサポート（キャリア教育・キャリアサポートステーション）
<https://www.n-seiryu.ac.jp/career/support/>

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科は、建学の精神「日進の学理を応用し、勉めて現今の社会に適応すべき実学を教授する」を踏まえ、地域社会に貢献できる自立した保育者を輩出すべく、DPを定めた。そのDPに基づくCPを策定し、教員の人員配置はもとより、教育課程について施行規則を満たした上で、DPを達成できる卒業生を養成できるよう手厚く科目配置を行なっている領域もある。ただし、科目配置を手厚くする一方で、学生が無理なく教育課程を全うする（本学幼児教育学科は保育士養成指定施設でもあるため、ほぼ全ての学生が教員免許・保育士資格同時取得を目指している現状である）ため、CAP制をもうけ特定の学期に学修が集中しないように配慮している。通常CAP上限は、学期ごとに29単位と定められているが、直前の学期のGPA(Grade Point Average)にしたがって、成績が良好な学生はCAP上限が上昇し、自分の興味がある科目をさらに自由に学修することができる一方、GPAが基準に満たない場合、CAP上限が引き下げられ、卒業や免許・資格取得に集中できるよう本学の手厚い科目配置の中であっても必要最低限の履修計画をするように制度設計がなされている。

短期大学での教員養成という年限の制約がある以上、教職課程科目以外の科目については厳選せざるを得ないが、保育者としての幅広い教養と表現に対する豊かな感受性を重視するため、複数分野にまたがる一般教育科目単位取得を卒業要件に義務付け、コアカリキュラム以上に表現領域における科目設置を手厚くしている。まず、一般教育科目については、他学科・併設の4年制大学の協力も得ながら可能なかぎりバリエーション豊かな科目選択ができるよう配慮している。いわゆる五領域の科目設置はもちろん、表現領域において、〈造形表現〉〈音楽表現〉〈運動表現〉とそれぞれの分野での専任教員の配置と応用的な科目設置を実現している。コアカリキュラムとコアカリキュラム以外の学科科目との位置付けについては、学生便覧においても、カリキュラムマップとして提示しており、基礎的な学修内容が多いコアカリキュラム科目とそれを踏まえた応用的な学修内容が多い学科科目との関連性・順序制が明示され、修了までの学修の見える化が図られている。各授業のシラバスは、教務委員が作成する

「シラバス作成要領」にしたがって作成され、学内システム内で閲覧することができる。シラバスの各項目においては、令和3年度の教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準等の改正において教職課程全体を通じたICT活用指導力の育成の取り組みが重要視されていることもあり、システム上のシラバスには、それぞれICT技術の積極的な活用、学士力やDPとの当該授業における学習成果との関連、フィードバックや評価の観点・指標が示され、教務委員等による相互チェックのもと適宜修正の上、履修登録前に公開される。

本学におけるICT機器の活用については、入学時に全ての学生にノート型PCなどの情報端末が配布され、学園内で広範に接続できるWi-Fiネットワーク、学内LANやさまざまなLMS(Googleclassroom、moodle)によって、シラバスの閲覧はもちろん学内の連絡事項の通知確認や授業内の課題提出・自身の成績把握など、クラウドを中心とするICT技術を用いた便利な教育活動や実践に自然に馴染むことができるように配慮されている。またこうしたICT機器やシステムを活用した教育方法については学内のコンピュータヘルプデスクが、適宜非常勤講師を含めて職員研修や技術・知識の拡充につとめている。

教育実習を行う上で、必要な履修要件等は学科内の「教育・保育実習に関する内規」に定められ、基本的には学園内の青陵幼稚園での一番最初の実習を修了できないかぎり以降の実習にすすめないことになっている。こうした一連の幼稚園教育実習が全て修了した二年生の後期授業開始直前に、学生が個々クラウド上にある自分の履修カルテを編集し、それぞれについてアドバイザー担当教員がこれまでの学修状況を把握し、後期の授業や保育・教職実践演習にどのように取り組むべきかコメントを行う。学生はそれを受けて、保育・教職実践演習の授業内で、教職に関するさまざまなトピックを振り返り、時にはグループディスカッションやグループワーク、現場訪問、実践を行いながら教育職員としての資質向上に努める。

また卒業論文にあたる調査・研究・実践発表の授業も年間を通じて設定されており、その中の活動などを通してアクティブラーニングを体験したり、問題解決能力を発揮したりする経験を卒

業までにすることになる。

〔長所・特色〕

何よりも、建学の精神、学科のDPを達成し、感性豊かな自立した保育者を輩出するために、特に領域〈表現〉の手厚い専任教員の人員配置・科目設置がまず第一に長所・特色として挙げられる。また、教育における先進的なICT環境の利用を体験・実践し自然に馴染めるようになる点も長所として挙げられる。近年幼稚園・保育園などにおけるICT環境は急激に変化しており、特にクラウドの利用を中心とした、記録の管理、安全の管理、通信のやりとりなどは今後の幼児教育の分野でそこで携わる職員にもますます高いリテラシーが必要とされるようになって考えられる。その意味で、自然にクラウド利用の意味、リスク管理、応用を本学のICT環境・カリキュラムの中で身につけることができるのは特色であると言える。

〔取り組み上の課題〕

今後、学生募集環境が厳しくなっていくと、従来の教育課程の基準や評価を全うできない学生が増えてくることが予想され、今後の課題となる。具体的な検討事項としては、卒業時にほぼ全ての学生が教員免許・保育士資格同時取得する前提を見直した場合の、実習内規の見直しあるいは厳格化が挙げられる。それに伴ってCAP制や成績評価基準の見直し、GPA制度の更なる活用など広範にカリキュラムマネジメントや履修マネジメントを見直す必要が出てくる。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料3-1-1：学生便覧
- ・資料3-1-2：シラバス作成要領
- ・資料3-1-3：教育・保育実習に関する内規

基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

本学においては、学内における科目の履修と学外における教育実習との往還により実践的指導力が育成されるよう、幼稚園教育実習を3期間に分けて実施している。内訳は1年次前期、後期各1週間、2年次前期2週間である。地域との連携においては、新潟県私立幼稚園・認定こども園協会が開催する「県内幼稚園教諭等養成校と私立幼稚園・認定こども園協会との懇談会」や本学教職課程である幼児教育学科主催の「教育・保育実習連絡会」において実習協力園との連携を図っている。

〔長所・特色〕

1年次前期に行われる教育実習は隣接する同法人の新潟青陵幼稚園で実施し、事前指導も当該園の園長・副園長等から受けるなど、密接な連携の下実践に結び付くように配慮している。その後の実習については、期間が分かれても基本的に同一園で実習することで継続観察による縦断的な子ども理解ができるよう工夫している。また、学科に実務経験のある実習専任教員と実習助手を配置し、保育室を模した教職実践演習室で学生各自が立案した指導案を基に学生間で模擬保育を実践する等幼児教育の現場との乖離がないよう指導に当たっている。教職実践演習室には隣接幼稚園の幼児等が来て学生と交流する機会もある。さらには、学内に実習支援室を設置して学生の実習のサポートをするとともに、実習協力園との連携がスムーズに行われるようにしている。本学は50余年の長きに渡り幼稚園教諭を輩出してきたことから、卒業生の保育者数は7000人に上る。そのため、幼稚園教諭育成については新潟県内外から厚い信頼を得ていると自負しており、実習指導や保育・教職実践演習、キャリアガイダンス等で毎年数多く卒業生、他現職教諭を招いての講話の機会を設けている。幼児教育学科主催の「教育・保育実習連絡会」は学科の全教員とキャリア支援課職員が出席し養成校での教育内容・就職支援の現状、保育現場が求める資質能力について情報交換を行っている。また、2020年からは対面に限らずzoomでの出席も可能になり、それ以前は移動距離・時間の負担から参加できなかった遠方の実習園にも出席してもらえるようになった。短大のある新潟市周辺の市町村に限らず幅広く地域との連携を図っている。

〔取り組み上の課題〕

3年前より昨年にかけて、感染症の拡大により教育実習に一部キャンセルや期間短縮があった。また、コロナ禍以前は、本学ボランティアセンターを通じ依頼のあった幼稚園・こども園を始めとした子どもに関係するボランティア活動を推奨してきたが、感染症拡大後依頼件数が激減し、正規の実習以外の学生の子どもに関わる体験を十分に保障することが難しくなっている。さらには、教員の実習園への訪問も、以前は原則県外も含め全ての実習園を訪問していたが、園からの要請により県外の園での実習の場合、多くは電話による実習状況の把握に留まっている。今後はアフターコロナを見据え、少しでも学生の実践的指導力を高めるための体験の機会を増やす取り組み、地域との連携を強める取り組みを検討すべきである。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：新潟青陵大学短期大学部 幼児教育学科「実習指導」の手引き
- ・資料3-2-2：「2022年度 教育・保育実習連絡会」資料

Ⅲ 総合評価

【基準領域1について】

評価できる点として、まず教職課程教育の目的・目標の共有のために本学科の教育内容について検討する機会が複数設けられていることである。内部では、本学科教員のシラバス検討会や本学科の学生を対象とした調査を通して教職課程教育の内容・達成度を客観的に評価している。外部では、外部有識者による第三者評価や教育実習の受け入れ園との実習連絡会での協議を通して外部からの視点で教職課程教育についての評価を行なっている。また、教職課程に関する組織的工夫としては、学科教員全員が配置された養成委員会の設置や実習担当の専任教員の複数配置を行い、取り組み体制の拡充に努めている。そして、入学時に学生にノートパソコンを貸与し、ICTスキルの向上が図られている。

課題としては、短大2年間という期間の短さに加えて、3年間に及びコロナ禍により対面指導の機会が減少していることによって、教職課程教育の目的・目標の共有が形式的なレベルに止まってしまうことが懸念される。また、教職課程の質的向上を図る研修会の開催と、実習園との協働性を組織的に高めるための工夫が必要とされている。今後は対面指導の機会が増加するものと思われるので、対面指導・遠隔指導のそれぞれの良さを取り入れたハイブリッドの教育体制を整えて、よりきめ細やかな学生指導を行うことが期待される。同時に、研修会や実習園との協働研究会なども遠隔開催を視野に入れながら計画していく必要がある。

【基準領域2について】

評価できる点として、教職を担うべき適切な学生の確保・育成の面において、オープンキャンパスでの併設幼稚園の見学や入学前教育でのピアノ・アドバイスを実施し、本学への入学への動機づけや不安感の軽減に努めている。入学後はアドバイザー教員によるサポートや表現実技科目の細分化によるきめ細かい指導とサポートを行なっている。さらに、併設幼稚園での実習、現職の園長や卒業生による講話の実施などで学生の意識を高めている。

また、教職へのキャリア支援としては、学生全員を対象としたキャリアガイダンスや学生一人一人との面談と個別サポートを教員とキャリア支援課の職員と共に行い、学生の進路実現のサポートを行なっている。課題としては、近年の入試状況において保育者を目指す高校生が減ってきており、定員を充足することが次第に難しくなっている。また、以前と比べて多様な希望・事情を持つ学生の入学が増えてきている中で、教職課程の履修を途中で諦めてしまう学生が徐々に増えてきている。そして、コロナ禍の影響により実習の中止や延期が多くなり、園研究を十分に進められなくなっており、学生が就職活動に必要な情報を十分に得られない状況が続いている。今後は、入試方法の見直しなどで保育に関心を持つ高校生が進路先として本学をより選びやすくなるよう工夫する必要がある。そして、入学してくる学生が多様な希望を持っていることを前提として、その希望に応じられるような体制づくりを具体的に進めていくことが求められる。

【基準領域3について】

評価できる点として、教職課程カリキュラムの編成・実施においては、表現実技科目に手厚い専任教員の人的配置・科目設置を行い、きめ細かな教育を行なっている。また、入学時に学生にノートパソコンを貸与し、学内にはLANを整備し授業においてLMSを活用して先進的なICT環境の利用を促すことによって、幼児教育の現場でも必要なICT環境を自然に体験できる体制を整えている。また、実践的指導力の育成と地域との連携においては、併設幼稚園での実習、外部の同一園での期間を置いた実習などを通して継続的な子ども理解ができるよう工夫している。また、長い歴史と厚い卒業生の保育者層を持つ本学の特徴を活かして、実習指導や講義などで数多くの園長、卒業生、現場教諭による講話の機会を設け、地域と連携を図りつつ学生の実践的指導力の育成に努めている。

課題としては、学生募集環境が厳しくなり、従来の教育課程の基準や評価を全うできない学生が増えてくることが予想される。今後は、教員免許・保育士資格を同時に取得する前提の見直しを図るとともに、実習内規の見直し、CAP制・成績評価規準の見直し、GPA制度の活用を行い、広範なカリキュラムマネジメントや履修マネジメントの見直しが必要となる。また、コロナ禍によって学生の保育ボランティア活動の機会が減少するとともに、県外の実習園での教員による巡回ができなくなってきた。今後は対面で活動する機会が徐々に増えてくると思われるので、そうした環境変化に対応できる体制を整え、地域との連携を強める取り組みを進める必要がある。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

教員・保育士養成委員会の構成委員で原案を作成し、同委員会委員長において検討し原案を確定した。その原案を幼児教育学科会議に諮り、最終的には短期大学部運営会議・教授会に諮って承認された。

V 現況基礎データ一覧

2022年5月1日現在

法人名	学校法人新潟青陵学園				
大学・学部名	新潟青陵大学短期大学部				
学科・コース名	幼児教育学科				
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
1	昨年度卒業者数				130名
2	①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)				120名
3	①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)				129名
4	②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)				116名
	④のうち、正規採用者数				113名
	④のうち、臨時的任用者数				3名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	4名	5名	0名	3名	
相談員・支援員など専門職員数5名					